

「11月19日の月食早見盤(3)」

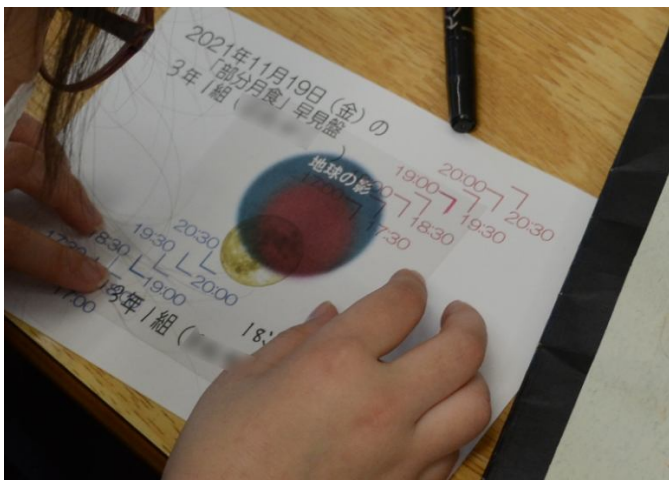
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

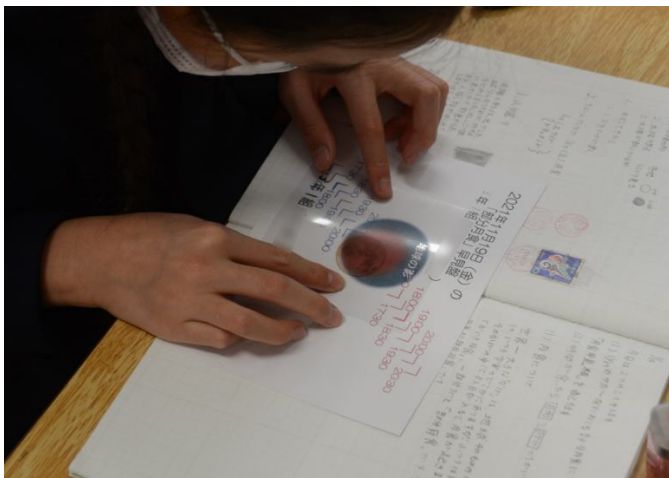
田中 千尋 Chihiro Tanaka

※2ページ目に印刷用画像(A4印刷用)があります。

今回の「月食早見盤」は、ほとんど説明なしでも使えるように作った。台紙にある時刻マーク(赤と青)を、透明板の角のマーク(赤と青)を、それぞれの色を合わせるだけで、その時刻に見えるおよその月の形がわかる。

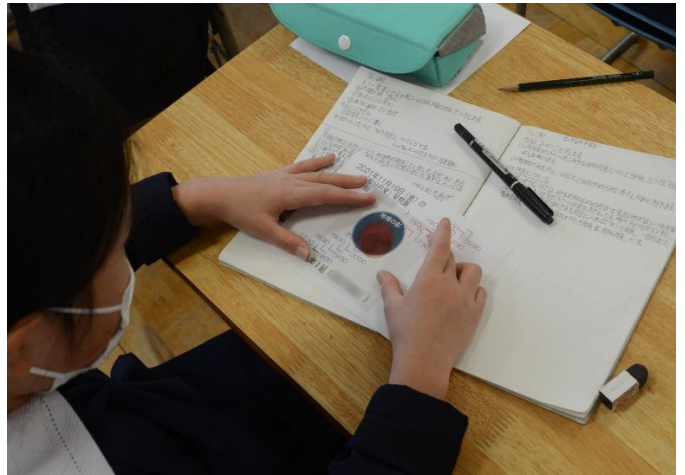


私はあえて使い方の説明を一切せずに、子どもたちに使わせてみた。裏面の説明を読む子どももいたが、ほとんどの子どもは、「勘」で使い方がわかったようだ。上の写真は、19:00頃の月の形だが、最大食が終わって満月に戻り始めた頃の形である。

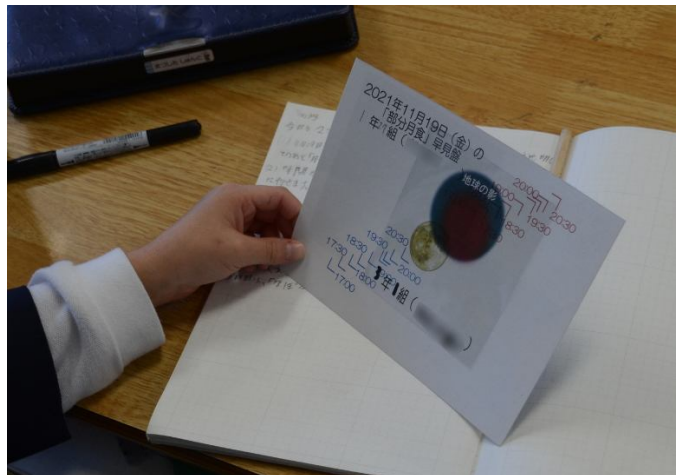


単に「ある時刻の月の形」を見るだけではなく、「月食がどのように変化するか」を試す子どもも多かった。台紙の上に透明板を置いて、ゆっくり右上に動かせば良い。この月食早見盤は、月のイラストの上を地球の

影が動くように作ってあるので、実際の月食時の地球の影の動きに近く、月食の仕組みを実感できる。



透明板の中央部分の影は、赤っぽくしてあり、その赤を通して台紙の月が透けて見える。今回の月食は「皆既」ではないが、実際の月食の最大食時には、月はかなり赤く(赤銅色)に見える。それを再現したいと考えた結果だ。

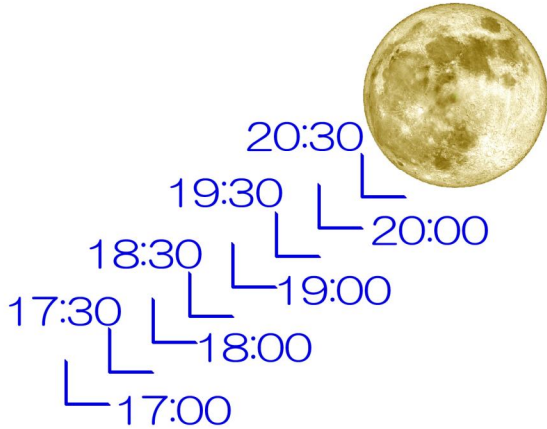
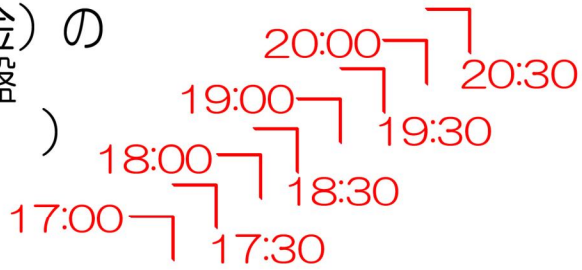


もう一つ思いがけない効果があった。地球の影を表す透明板は、レーザープリンター(コピー機)用のOHPシートを使っている。このシートは静電気によって平らなものにくっつきやすい。このように台紙を縦にしても落ちないのだ。これなら、実際の月食の時に、夜空に「かざして」観察できるだろう。

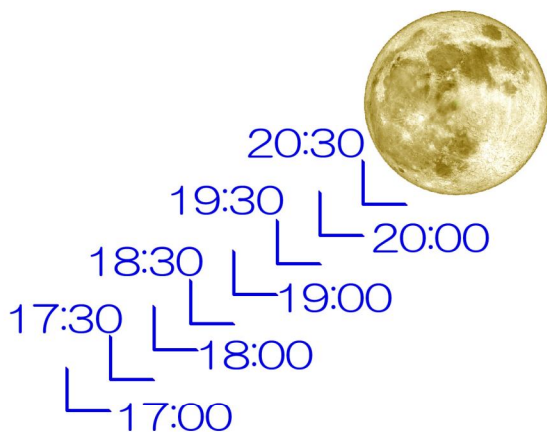
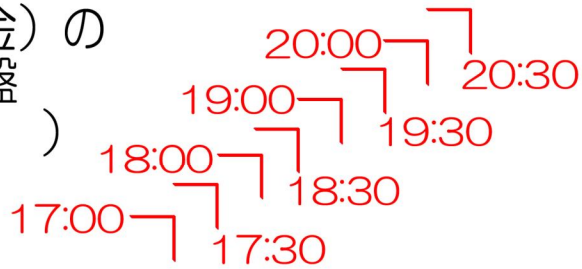
【3年生のノートから】

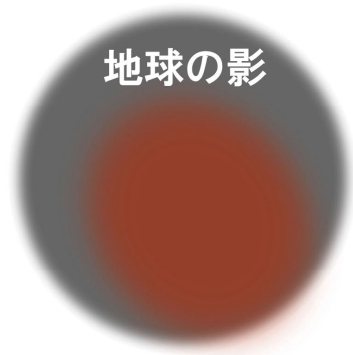
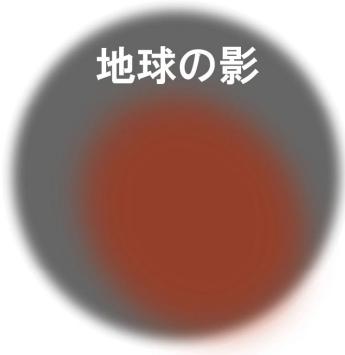
「月食早見ばんというものをもらいました。先生は1かいかぎり有こうと言っていました。今かいの月食にしか使えないけど、ためしてみたら、本物の月食をみてるみたいな気がしました。とう明のかげのほうを動かすと、どんどん月の形が変わっていくからです。金曜日は晴れて、きれいな月食を見れるのが、すごく楽しみになりました」

2021年11月19日（金）の  
「部分月食」早見盤  
年 組（                    ）



2021年11月19日（金）の  
「部分月食」早見盤  
年 組（                    ）

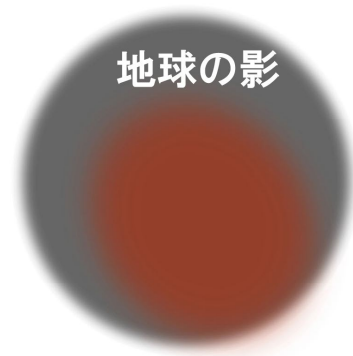
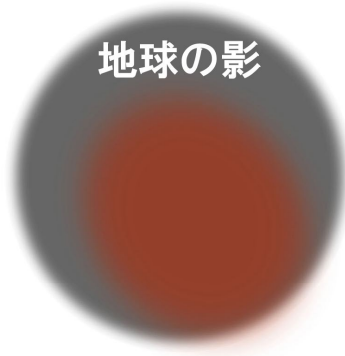




年 組 ( )



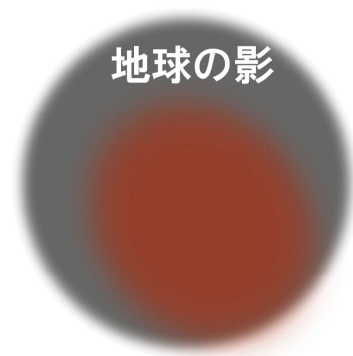
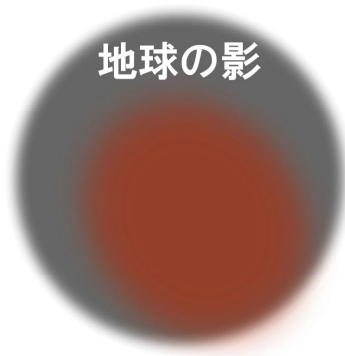
年 組 ( )



年 組 ( )



年 組 ( )



年 組 ( )



年 組 ( )